

## 薬草だより

## 橋本竹二郎の植物画紹介

## その5

樋口 剛央\*

キバナオウギ (マメ科)

*Astragalus membranaceus* (Leguminosae)

生薬名：黄耆 (オウギ)

花期は6～8月。根を薬用部位とする。止汗、利尿、強壯薬とされ、日本では漢方処方に配合して使用されることがほとんどである。黄耆建中湯、帰耆建中湯、加味帰脾湯、七物降下湯、十全大補湯、清暑益気湯、当帰飲子、人参養榮湯、防己黄耆湯、補中益気湯等、保健強壯薬を中心に数多く配合される。



クコ (ナス科)

*Lycium chinense* (Solanaceae)

生薬名：〈果実〉枸杞子 (クコシ), 〈根皮〉地骨皮 (ジコッピ), 〈葉〉枸杞葉 (クコヨウ)

花期は5～9月。果実、根皮、葉を薬用部位とする。果実は杞菊地黄丸に配合される。薬膳料理や菓子など食用にも用いられ、最近ではゴジベリーの名で、アンチエイジングのスーパーフードとして紹介されることもある。根皮は清熱に働き、咳喘、吐血など肺熱による症状の他、高血圧にも応用されており、滋陰至宝湯、清心蓮子飲等に配合される。葉は強壯や利尿にお茶代わりに飲用される他、新鮮な若葉は天ぷらや菜めしなど食用にする。



クズ (マメ科)

*Pueraria lobata* (Leguminosae)

生薬名：葛根 (カッコン)

花期は8～9月。周皮を除いた根を薬用部位とする。葛粉 (本葛) とは、本来この根から取られた澱粉を精製したものであるが、現在は生産量が少なく高価なため、安価なジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ等の澱粉を混ぜたものが多い。薬用では発汗、解熱、鎮痛、消炎薬とされ、葛根湯、葛根湯加川芎辛夷、升麻葛根湯、参蘇飲、独活葛根湯等に配合される。



## 橋本竹二郎

松浦薬業株式会社顧問

## 来歴

1931年東京に生まれる。

牧野富太郎氏らと親交。津村研究所 (現ツムラ)、名城大学薬学部、富山大学和漢薬研究所のほか、複数の製薬会社の顧問等を経て、現在に至る。

## 主な著書

「立山路の花しるべ」(共著、巧玄出版、1977)、「北陸の自然誌」(里見信生 編著、巧玄出版、1979)、「目で見える薬草百科-見分け方・採取時期・薬効と使い方」(永岡書店、1984)、「薬草・花を描く-ハーブドローイング植物画を楽しもう」(日貿出版社、1994) ほか